

## ・ 鉄 部 塗 膜 の 劣 化 診 断

### 1 . 変 退 色 の 診 断

#### 1 ) 劣化の現象

塗膜中の着色顔料が紫外線や酸、アルカリ等により化学変化をおこし退色（色あせ）、変色（色がわり）を起こした現象をいう。

#### 2 ) 調査個所選定の注意

調査部を巨視的に観察し、変退色が偏在する場合はその程度の異なる場所から3点を選び、偏在がない場合はその調査部の代表的な場所3点を選ぶ。

#### 3 ) 調査方法

- a ) 調査個所は均一な明るさで、乾燥面とし、3点選定する。
- b ) 調査部の新設時の色を、劣化が進行していない部分等を参考にして推定する。
- c ) 各調査点ごとに、推定色との色具合のずれを JIS L 0804 変退色用グレースケールを用い、変退色の程度を G スケール値として求める
- d ) 各劣化状態をもとに、調査部の代表劣化ディグリーを求める。

#### 4 ) 変退色の評価基準

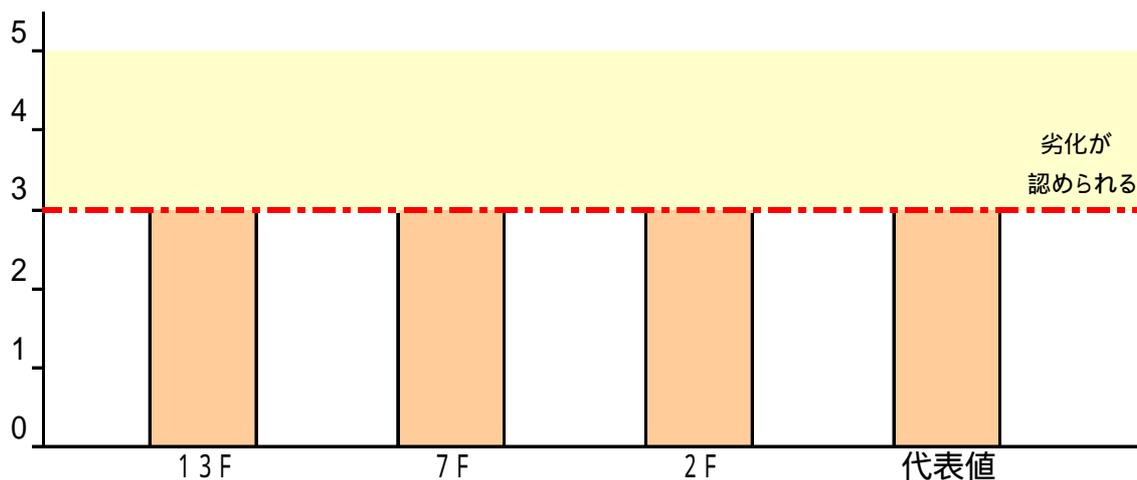
劣化ディグリー	Gスケール値	劣 化 状 態
C D 0	変退色無し	変退色無し
C D 1	5	変退色がほとんどない
C D 2	4.5	変退色がわずかに認められる
C D 3	4	変退色が認められる
C D 4	3.5	変退色がかなり認められる
C D 5	3以下	変退色が顕著に認められる

表C - 1

変退色の調査表

建物名称：\*\*\*\*\*

調査部位：A棟PS扉  
 既存塗膜：SOP

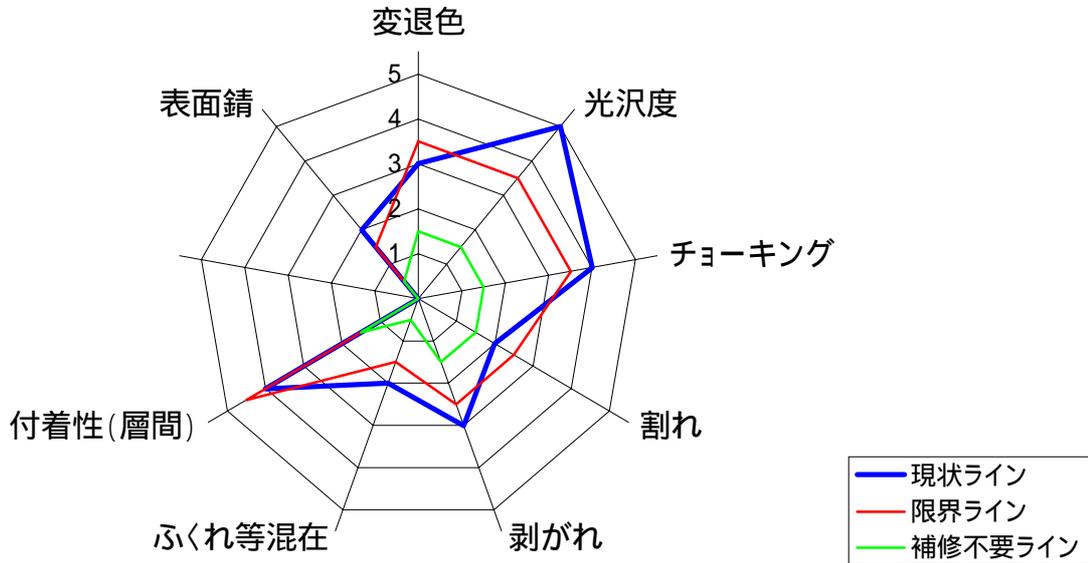


調査部位	実測Gスケール値			劣化 ディグリー	調査部 代表値	備 考
	1	2	3			
A棟PS扉 13F	4	4	4	CD3	CD3	
A棟PS扉 7F	4	4	4	CD3		
A棟PS扉 2F	4	4	4	CD3		

劣化ディグリー	Gスケール値	劣化状態
CD0	変退色無し	変退色無し
CD1	5	変退色がほとんどない
CD2	4.5	変退色がわずかに認められる
CD3	4	変退色が認められる
CD4	3.5	変退色がかなり認められる
CD5	3以下	変退色が顕著に認められる

- 1 鉄部塗膜の評価（外観性能重視）

建物名称：\*\*\*\*\*



外観重視の調査部補修要否判定レーダーチャートグラフ

劣化現象		劣化ディグリーに対する補修グレード					
		外観重視の判定					
劣化ディグリー		0	1	2	3	4	5
変退色	CD	0	1	2	2	3	3
光沢度低下	GD	0	1	2	2	3	3
チョーキング	CK	0	1	2	2	3	3
割れ	C	0	1	2	3	4	5
剥がれ	S	0	1	2	3	4	5
ふくれ等混在	MR	0	2	3	3	4	5
付着性(層間)	XC(1)	0	1	2	2	2	3
付着性(素地)	XC(2)	0	1	2	3	4	5
錆び	R	0	2	3	3	4	5

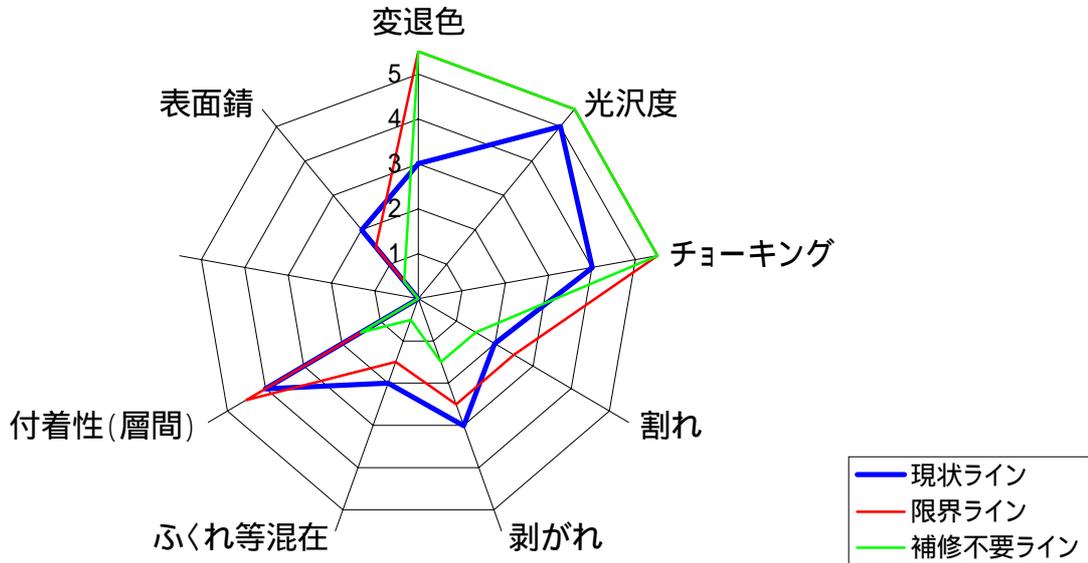
外観重視の劣化現象別補修要否判定表

・鉄部塗膜外観重視の評価

外観性能の劣化が著しく認められ、目立ちますので、外観性能保持効果のある塗替等改修が必要と思われます。

- 2 鉄部塗膜の評価（防蝕性能重視）

建物名称：\*\*\*\*\*



防蝕性重視の調査部補修要否判定レーダーチャートグラフ

劣化現象		劣化ディグリーに対する補修グレード					
		外観重視の判定					
劣化ディグリー		0	1	2	3	4	5
変退色	CD	0	0	0	0	0	1
光沢度低下	GD	0	0	0	0	0	1
チョーキング	CK	0	0	0	0	0	1
割れ	C	0	1	2	3	4	5
剥がれ	S	0	1	2	3	4	5
ふくれ等混在	MR	0	2	3	3	4	5
付着性(層間)	XC(1)	0	1	2	2	2	3
付着性(素地)	XC(2)	0	1	2	3	4	5
錆び	R	0	2	3	3	4	5

防蝕性重視の劣化現象別補修要否判定表

・鉄部塗膜防蝕性重視の評価

錆びの発生があり、今後断面欠損も生じる可能性がありますので、早急に防蝕性を考慮した補修が必要です。